

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	66人	国語B	66人
② 算数A	66人	算数B	66人
③ 理科	66人		

5 留意事項

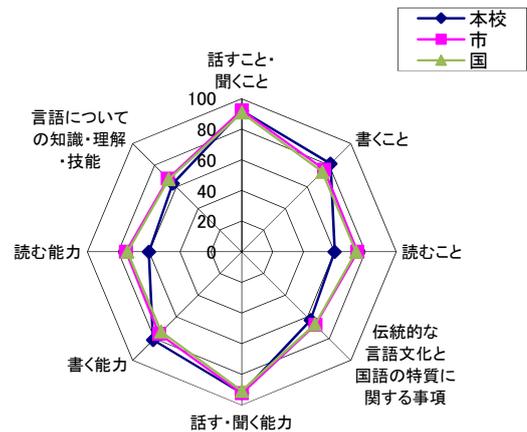
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

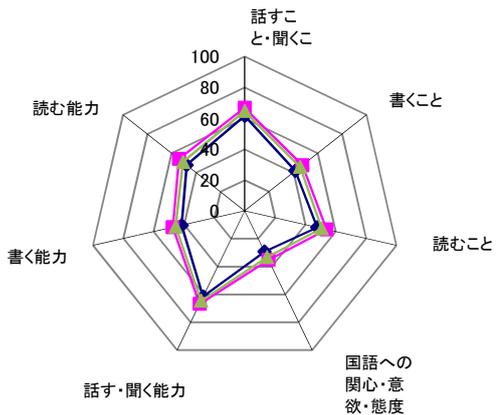
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	92.2	92.4	90.8
	書くこと	81.3	75.7	73.8
	読むこと	60.2	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.1	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	92.2	92.4	90.8
	書く能力	81.3	75.7	73.8
	読む能力	60.2	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	63.1	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	61.5	66.8	64.6
	書くこと	41.6	47.4	45.6
	読むこと	47.7	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	29.2	35.2	33.2
	話す・聞く能力	61.5	66.8	64.6
	書く能力	41.6	47.4	45.6
	読む能力	47.7	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

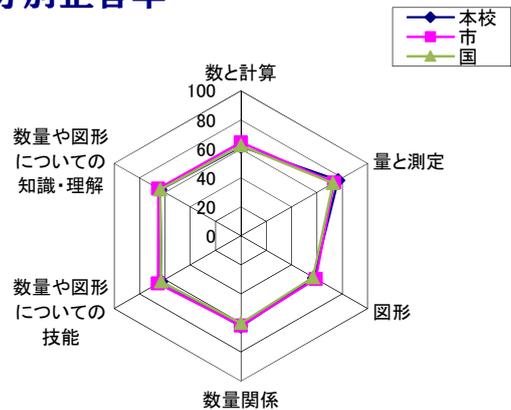
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A領域の平均正答率は92.2%で、全国平均を約1.5%上回っている。 ●B領域の平均正答率は61.5%で、全国平均よりも約3%下回っている。そのうち、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題については、全国平均を約7%下回っている。	・国語をはじめとして、学級活動やその他、あらゆる教科の話し合い活動において、相手の意見を正確に聞き取り、それについての自分の考えを表現する場をより多く確保していきたい。その際、相手の意見をノートに書きとりながら聞き取ったり、自分の考えを書き加えたりする活動を意図的に推奨していくことで、話し合いに主体的に取り組むことのできる力を高めていく。
書くこと	○A領域の平均正答率は81.3%で、全国平均を約7%上回っている。 ●B領域の平均正答率は61.5%で、全国平均を約3%下回っている。そのうち、「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」問題については、全国平均を約6%下回っている。	・主に意見文を書く学習活動や、プレゼンテーションの資料作りを行う学習活動で、複数の資料を活用することに重点を置いた指導を行っていく。その際、統計資料や、インタビュー資料など、多種多様な情報を関連付けながら、説得力を高めていけるよう、教材の準備を整えていきたい。
読むこと	●A領域の平均正答率は60.2%で、全国平均を約14%下回っている。そのうち、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」問題については、全国平均を約20%下回っている。 ●B領域の平均正答率は47.7%で、全国平均を約3%下回っている。そのうち「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」問題については、全国平均を約4%下回っている。	・情景描写と登場人物の心情との関係性が、多く取り入れられている作品(例えば、「大造じいさんとガン」等)を活用し、描写を読み取るための学習活動を積極的に行う。 ・情景描写と心情との関係については、物語づくりの活動や、行事作文の活動でも取り上げることができる。そうした様々な機会を捉えて指導を充実させていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は63.1%で、全国平均を約4%下回っている。そのうち、「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」問題については、全国平均を約22%下回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」については、全国平均をやや上回っている。	・学年別配当漢字については、チャレンジテスト等の実施を継続し、現在の学力の維持、向上を図っていく。 ・主語と述語の関係については、改めて学習内容を振り返り、定着を図る。また、物語教材や説明文教材を用いた単元においても、主語と述語の関係を取り上げながら確認することで、学習内容の定着を図ることができるようにする。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

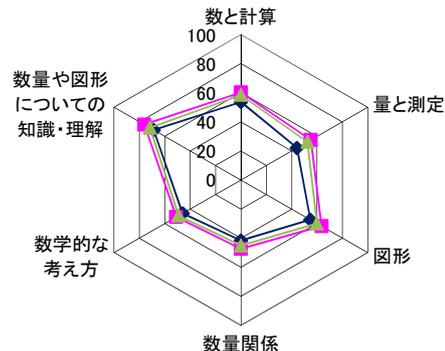
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.6	64.5	62.3
	量と測定	76.6	73.6	72.7
	図形	57.8	59.1	56.9
	数量関係	62.2	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	63.0	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	63.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.6	60.2	58.4
	量と測定	44.1	55.0	52.4
	図形	54.7	63.5	59.9
	数量関係	41.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	68.8	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

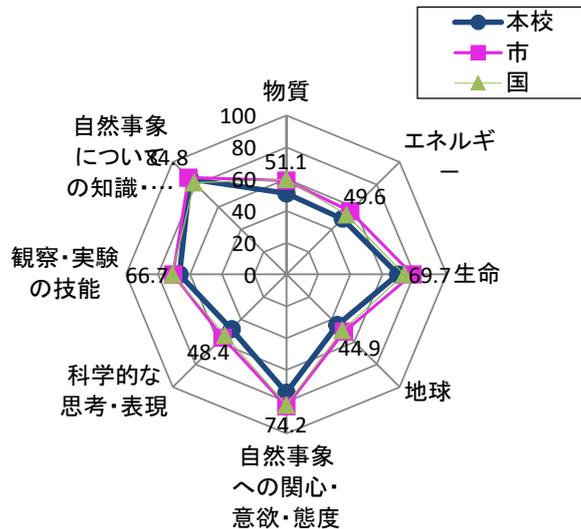
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●A領域の平均正答率は、61.6%で、全国平均を1ポイント下回っている。小数の除法の意味について理解しているかの問題では、正答率35.9%と低かった。 ●B領域の平均正答率は、53.6%で、全国平均を5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに計算ストレッチを取り入れ、繰り返し計算問題を取り入れるようにする。 ・習熟度別学習で個に応じた指導を実施しているが、今後も継続し、さらなる充実を図るようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○A領域の平均正答率は、76.6%で、全国平均を4ポイント上回っている。 ●B領域の平均正答率は、44.1%で、8ポイント下回っている。示された情報を解釈し、表に整理し、条件に合う時間を求める問題では、正答率が18.8%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・示された情報を表に整理したり、そこから読み取ることが苦手な児童が多いため、普段の授業でも様々な資料に触れさせ、そこから分かることを表にまとめる機会を多く取り入れるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○A領域の平均正答率は、57.8%で全国平均を1ポイント上回っている。 ●B領域の平均正答率は、54.7%で全国平均を5ポイント下回っている。合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す問題の正答率が低かった。図形の構成要素や性質を基に集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する問題では、無回答率が10.9%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素については既習内容を確認し、復習するための練習問題に取り組ませ、さらに自分の言葉で記述できるよう、説明する活動を増やしながら定着を図っていく。 ・習熟度別少人数指導により、きめ細やかな指導をすることで、図形に関する知識の定着を図るようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ○A領域の平均正答率は、62.2%で全国平均を2ポイント上回っている。 ●B領域の平均正答率は、41.6%で全国平均を4ポイント下回っている。メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それが記述できるかの問題では正答率が18.8%であり、無解答率も10.9%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを読み取ることが難しい児童が多いので、授業の中で様々なグラフを読み取る機会を増やし、何が読み取れるのか自分で説明させる機会を多く取り入れるようにする。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	51.1	59.0	59.8
	エネルギー	49.6	56.4	53.1
	生命	69.7	78.6	73.6
	地球	44.9	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	74.2	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	48.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	66.7	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	84.8	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>○実験結果から海水と水道水を区別するための問題の正解率は8割の児童が正解を求めることができた。</p> <p>●市の平均より-7.9%, 国の平均より-8.7%と市, 国の平均より下回った。</p> <p>●正しい理科の実験器具の使い方の理解度が低い。</p>	<p>理科で使用する実験器具の正しい使い方と, 実験から導き出せる答えへの理解度が低い。実験器具の正しい使い方と, 実験の意図する答えを, 学び直す必要性があると共に, 複数回の類似した実験が必要と考えられる。</p>
エネルギー	<p>○実験結果から考え直す問題の正解が, 市, 国の平均よりやや低かった。</p> <p>●市の平均より-6.8%, 国の平均より-3.5%と市, 国の平均より下回った。</p> <p>●4年生の学習内容を忘れていく傾向がある。</p>	<p>2つの類似しているように見える物の違いを発見する力が弱い傾向にあると考えられる。複数ある物体の少しの違いに気付けるように, 訓練する必要がある。また, 既習学習の振り返りを行い, 学習内容の定着を図る。</p>
生命	<p>○複数回答の1つは正解を選ぶことができている。</p> <p>○単刀直入に答える一問一答形式の問題の正解率は平均並みであった。</p> <p>●市の平均より-8.9%, 国の平均より-3.9%と市, 国の平均より下回った。</p> <p>●4年生の学習内容を忘れていく傾向がある。</p>	<p>複数回答の1つは正解を選択することができるが, 誤答も選んでしまう傾向がある。問題の意図を読み取り, 正解を導き出せるよう, 問題を読み取る力を育てる必要がある。また, 既習学習の振り返りを行い, 学習内容の定着を図る。</p>
地球	<p>○単刀直入に答える一問一答形式の問題の正解率は平均並みであった。</p> <p>●市の平均より-6.0%, 国の平均より-4.6%と市, 国の平均より下回った。</p> <p>●「流れる水のはたらき」の問題では, 質問の内容を理解せず, 誤答を選ぶ児童が複数名存在した。</p>	<p>問題の意図を理解せず, 誤答を選ぶ傾向が多い。出される問題に対して, 考察する経験が少ないことが理由として考えられる。授業の中で, 様々な問題に対して, 考察する学習時間を多く取り入れる必要がある。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己肯定感や自己有用感についての設問に対する回答では、9割以上の児童が肯定的回答をしており、県や全国の割合を上回っている。自分の良いところを自覚できるような活動を取り入れる、認め合いの時間を意図的に設ける、教師が称賛する場面を増やしていくなどして気持ちの維持・向上に努めていきたい。

○きまりを守ることに對する設問では95.5%の児童が肯定的回答をし、県や全国の割合を上回った。集団生活においては生活面・学習面どちらの面からみても重要なことであると考えられる。今後も大切に、指導していきたい。

●家庭生活の習慣に関する設問では、肯定的回答の割合が県や全国の割合をわずかに下回るものが目立った。特に就寝時刻に関する設問では、家庭での過ごし方との関連が考えられるため、合わせて啓発を行いたい。

●家庭学習に関する設問では「計画を立てて勉強しているか」、「授業の予習・復習をしているか」についての肯定的回答の割合が県や全国と比べて2.5～15ポイントも低い結果となっている。一方で、学校の宿題の実施や家庭学習を行う児童の割合は、平均と同程度が高い結果となっている。与えられた宿題以外に、計画的に自分に必要な学習をする習慣が身につけていない結果となっているため、自主学習の進め方や内容についての全体指導や、実施状況に応じた結果の個別指導が必要であると思われる。また、学習時間も宇都宮市のスタンダードに明記されている、1時間を越える児童の割合は56.1%と、県や全国の平均と比べて低い結果となっている。現段階では、内容の濃さは時間の長さにつながると考え、合わせて指導していきたい。

●読書時間についての設問では、1日10分以上の読書をしていると回答した児童の割合は59.1%と県や全国の割合を7ポイント程度下回っている。読書の記録の活用、チャレンジブックを読むことの奨励、授業時の本の活用や並行読書を授業に取り入れるなど、本に触れる機会を増やし、自分に合った本の見つけ方を知る機会や楽しさを体感する機会を設けていきたい。

●放課後や休日の過ごし方に関する設問では、複数回答ではあるが、9割程度の児童が「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答している。時間の使い方について考える機会を持つとともに、先述した家庭学習や読書の時間の確保についても触れ、優先順位を決めて利用したり、家庭でのルールや制限を設けたりする必要性についても伝える必要がある。

●「学校での出来事を家の人に話す」や「社会事象に関心を持っている」、「新聞を読む」についての設問では、肯定的回答の割合が平均よりも下回る結果となった。自分のことを表現したり、興味・関心を広げて追究することは苦手とする傾向が見られるが、学習指導を通し向上を目指していきたい。

●算数や理科の授業や学習内容を定着させることの重要性は認識しているものの、学習したことをもとに広げたり、新たな疑問や感動を見出したりすることは難しい傾向がある。授業の場面や自主学習の指導を充実させていく中で向上を図ってきたい。

宇都宮市立御幸小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研修 基礎・基本学力の定着 読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員同士の授業研修を行う。研修は、公開授業、および提案講座の形で行う。 基礎・基本として、学校全体で行うべき学習事項を抽出、共有し、学力の定着を図る。 月曜日と金曜日の朝に図書室を開放し、読書活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の学力については、一定の成果が得られている。 主体的・対話的で深い学びの実現とともに、B問題の正答率の向上を図りたいが、現在は満足のいく結果に繋がっていない。 読解力の向上には課題があり、読書活動の推進をより一層進めていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 主にB問題の結果に課題が多い。 引き続き基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な学習課題についても、より一層発展的に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解力の向上に向けた取り組み 発展的・応用的な課題に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 5分間読解ドリルを活用し、朝の学習で定期的実施する。 授業では、発展的・応用的な課題を積極的に取り入れ、多角的に思考したり、適切に表現したりする力を高めていく。